

[成果情報名] 茶優良品種「さきみどり」、「ふうしゅん」に適した幼木せん枝開始時期
[要約]せん枝を定植3年目3月に開始すると、樹姿が中間型の「さきみどり」では定植2年目7月せん枝開始と比べて多収となり、やや直立型の「ふうしゅん」では同等である。
[キーワード] さきみどり、ふうしゅん、中間型、やや直立型、せん枝
[担当]長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・茶業研究室
[連絡先] (代表) 0957-46-0033
[区分]茶
[分類]普及
[作成年度]2016年度

[背景・ねらい]

茶業経営では、「やぶきた」偏重による摘採期間集中や茶樹の老木化による生産性低下への対策が課題となっており、優良品種への改植が推進されている。また、茶市場、茶商等の実需者は、高品質なリーフ茶や、原料茶を多量に生産するために多収性品種も求められている。これらに対応するために、本県では、葉緑素が多く、多収性の「さきみどり」と多収性の「ふうしゅん」を平成21年に認定品種とした。ここでは、これらの品種の樹姿等の特性に適した幼木せん枝開始時期を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 樹姿が中間型の「さきみどり」では、せん枝を定植3年目3月に開始すると定植2年目7月にせん枝開始と比べて定植6年目の生葉収量が増加する(表2)。
2. 樹姿がやや直立型の「ふうしゅん」では、せん枝を定植3年目3月に開始すると、定植2年目7月にせん枝開始と比べて定植6年目の生葉収量は同等程度である(表3)。
3. 一番茶荒茶品質は、「さきみどり」「ふうしゅん」とも、定植3年目3月と定植2年目7月せん枝開始と比べて同等である。定植3年目7月にせん枝する場合は、定植5年目の一番茶荒茶品質はやや劣るものの、定植6年目は同等である(表4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 定植6年目までの「さきみどり」、「ふうしゅん」を用いた試験である。
2. 試験園の年間施肥は、県基準技術に沿って行った。また2t/10aの堆肥を冬期に施用した。
3. 栽植密度は株間60cm、条間50cmの二条千鳥植えである。
4. 幼木育成時には、ソルゴー、防風ネット等による防風対策を行うことが望ましい。特に定植2年目のせん枝を行わず枝を伸張させる場合は、必ず対策が必要である。
5. 定植3年目の7月にせん枝を開始した場合は、定植5年目までは摘採面の枝数が少なく、摘採芽が不揃いであるため、木茎臭や茎味を呈し、やや内質が劣る。

[具体的データ]

表1 処理方法（せん枝時期、高さ）

試験区	整せん枝日・高さ(cm)			
	定植2年目	定植3年目		
	2012/7/24	2013/3/12	2013/7/9	2013/11/5
定植3年目3月せん枝	—	35	42(39)	50(46)
定植3年目7月せん枝	—	—	42(39)	50(46)
定植2年目7月せん枝(慣行)	25	35	42(39)	50(46)

注1) せん枝の高さは、株元地際部からの高さ。

注2) 定植1年目から3年目の3月までは「さきみどり」、「ふうしゅん」のせん枝高は同じで、7月以降は()の数値が「ふうしゅん」の高さを表している。

注3) 各区とも植え付け時に地際部地上から15cmの高さでせん枝を行った。

表2 「さきみどり」の生葉収量の推移(kg/10a) n=3

試験区	定植4年目(2014年)		定植5年目(2015年)		定植6年目(2016年)	
	一番茶		一番茶	二番茶	一番茶	二番茶
定植3年目3月せん枝	245±25	n. s.	390±45 (p=0.12)	143±29 (n. s., p=0.06)	673±91	* 345±35 **
定植3年目7月せん枝	176±10 (n. s., p=0.18)	n. s.	355±26	134±35 (n. s., p=0.14)	636±69 (n. s., p=0.14)	335±29 *
定植2年目7月せん枝(慣行)	231±62		336±36	102±11	536±65	241±45

注4) **=1%、*=5%の危険率で有意差有り、n. s.=有意差無し(Dunnett法で慣行区との差を検定)以下同じ。

注5) 生葉収量±標準偏差を表している。

表3 「ふうしゅん」の生葉収量の推移(kg/10a) n=3

試験区	定植5年目(2015年)		定植6年目(2016年)	
	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶
定植3年目3月せん枝	421±41 (n. s., p=0.09)	149±10 n. s.	348±6 n. s.	571±43 (n. s., p=0.07)
定植3年目7月せん枝	277±23 (n. s., p=0.07)	137±33 n. s.	300±25 n. s.	317±75 **
定植2年目7月せん枝(慣行)	351±87	142±55	328±31	486±35

注6) 「ふうしゅん」は、定植4年目の収穫は行っていない。

表4 一番茶荒茶品質

品種	樹齢	試験区	形状	色沢	香気	水色	滋味	合計	概評
さきみどり	定植5年目	定植3年目3月せん枝	14.0	14.0	14.0	15.0	14.0	71.0	やや木茎臭
		定植3年目7月せん枝	14.0	14.0	13.5	14.5	13.5	69.5	
		定植2年目7月せん枝(慣行)	14.0	14.0	14.0	15.5	14.0	71.5	
さきみどり	定植6年目	定植3年目3月せん枝	13.0	13.5	14.0	15.0	14.0	69.5	
		定植3年目7月せん枝	13.0	13.5	14.0	15.0	14.0	69.5	
		定植2年目7月せん枝(慣行)	13.0	13.5	14.5	15.0	14.0	70.0	
ふうしゅん	定植5年目	定植3年目3月せん枝	13.0	13.5	12.0	15.5	13.0	67.0	やや木茎臭、やや茎味
		定植3年目7月せん枝	12.0	13.5	11.5	15.5	12.0	64.5	
		定植2年目7月せん枝(慣行)	12.0	13.5	12.0	15.5	13.0	66.0	
ふうしゅん	定植6年目	定植3年目3月せん枝	14.0	13.5	13.5	15.0	14.0	70.0	
		定植3年目7月せん枝	13.5	13.5	14.0	15.0	14.0	70.0	
		定植2年目7月せん枝(慣行)	13.5	13.5	14.0	15.5	14.0	70.5	

注6) 各項目20点満点で4名の審査員による合議制で審査を行った。

[その他]

研究課題名：茶優良品種の育成期間における栽培方法の確立

予算区分：県単

研究期間：2012～2016年度

研究担当者：池下一豊、太田久